

2023年度 恵愛会 事業報告

1. はじめに

2023年度は病棟看護師不足による病床制限を余儀なくされる中、病床運営の再開を最重要課題として看護師の確保に努めた。応援看護師なども活用し看護師体制は充足したものの、医師体制の変動により、入院患者さんの十分な受入は進まず、その結果、非常に厳しい経営を迫られることとなった。診療体制では、11月に内科常勤医1名が着任し、また来年度は内科常勤医2名、整形外科常勤医2名の採用が決定するなど、課題であった医師体制は改善傾向にある。

また、1月には念願の電子カルテシステムおよび勤怠管理システムを導入、3月にはタブレットを活用し訪問看護・居宅介護の記録を電子化する運用を開始し、業務改善・効率化の基盤をつくることのできた。今後も働き方改革の推進を図っていききたい。

健診事業では7月に新たに常勤医師が着任し、施設内健診の充実を図るとともに、巡回バスによる富士市結核・肺がん検診の運営を開始した。その他、訪問看護利用者の緊急入院やレスパイト目的の入院受入など、在宅事業と地域包括ケア病床の連携を推進した。

2024年度は課題であった内科・整形外科の医師体制が充足され、また、電子カルテ稼働により煩雑な業務からの脱却が図られる。静岡県内でも医師不足地域に指定される地域の医療提供体制や高齢化社会における高齢者を支える医療のニーズが高まっている現状を鑑み、“変革”をテーマに地域に貢献できる病院機能の再構築にチャレンジしていく。

※各事業別の主な経営成績は以下の通りである。

(千円)

項目	予算	実績	対予算	対前年
医業収益	4,941,724	4,444,361	89.9%	94.1%
病院	4,753,686	4,278,203	90.0%	94.0%
在宅	188,038	166,158	88.4%	96.4%
医業費用	4,968,407	4,798,379	96.6%	97.8%
病院	4,823,266	4,643,960	96.3%	97.7%
在宅	145,142	154,419	106.4%	101.0%
経常利益	9,903	-300,682	-	-
病院	-33,264	-313,117	-	-
在宅	43,167	12,435	-	-
当期純利益	9,894	-300,624	-	-
病院	-33,273	-313,059	-	-
在宅	43,167	12,435	-	-

2. 聖隷富士病院

2023年度は”医師・看護師など医療従事者の確保”を最重要課題として掲げていたが、病棟看護師が充足されないまま新年度を迎え、病床を制限しての運営を迫られた。そのような中でも、外科・整形外科の手術や循環器科の心臓カテーテル治療など緊急性の高い患者さんの受入は継続するなど工夫しながらの病床運営に努めた。また、6月には5階の地域包括ケア病床12床を一般病床へ変更し、急性期の患者受け入れ病床の拡大を図った。医師体制においては、昨年度末に内科医師の退職があり内科二次救急を辞退、医師の退職に伴う小児科の閉鎖など、今年度も医師体制の変動により地域の関係者へご迷惑をお掛けすることとなった。その他、5類に移行した新型コロナウイルス感染症への継続した感染対策、透析利用者の受入促進、健診事業の拡大、画像診断機器の有効活用を目的とした夕方紹介枠の開始等に取り組んだ。

長年の課題であった医師体制は次年度に内科医師2名、整形外科医師2名が新たに加わる予定である。また、紙カルテ特有の業務の煩雑さを解消するため、1月に電子カルテを導入した。今後も業務の標準化や効率化、医療安全に寄与できるよう取り組みを推進していく。

この地域では高齢者特有の総合的な疾患への対応、高度な専門治療を必要としない一般急性期病床（地域包括ケア病床含む）の不足、救急受入体制など課題が多い。2024年度は医師体制の充足、電子カルテの稼働という大きな2つの武器をもって、当法人の理念にもある「地域に貢献できる医療」を目指していけるよう、地域から期待される病院機能の再構築にチャレンジしていく。

1. 地域に貢献できる病院運営

- ① 地域に貢献し、信頼される病院
- ② 高齢者、弱者に優しい病院
- ③ 気軽に利用できる病院

2. 病院機能の整備と地域連携の強化 / 3. 安全・安心な医療サービスの提供

- ① 医師・専門職の採用強化
 - ・各種紹介会社との連携強化
 - ・健診常勤医師 7月着任、内科常勤医師 11月着任
 - ・2024年度 内科常勤医師2名の採用決定
 - ・紹介会社経由の看護師採用 25名（内応援看護師 15名）
 - ・学生実習の受入、学校訪問、合同説明会への参加
 - ・薬剤課 2名、検査課 2名、リハビリ課 1名、臨床工学室 3名採用
- ② 病床の有効活用
 - ・病床稼働率 65.4%【目標：79.5%】
 - ・地域包括ケア病床の活用（平均29.6名、病床稼働率 68.0%）
 - ・レスパイト受入枠の拡大 109件（前年 92件）
 - ・医療依存度の高い患者の受入（小児麻痺・気道軟化症など）
 - ・転院/初回レスパイト入院の判定会議を開催
- ③ センター機能の充実（手術、内視鏡、心カテ）
 - ・手術件数 74件/月【目標：84件/月】
 - ・聖隷浜松病院による診療支援継続（整形 脊椎・下肢関節、眼科 白内障手術）
 - ・外来白内障手術の運用開始

- ・内視鏡件数 239 件/月【目標：230 件/月】
- ・健診内視鏡検査枠の拡大
- ・心カテ治療・検査件数 36 件/月【目標：43 件/月】
- ④ 透析機能の充実
 - ・透析実利用者数 144 名【目標：151 名】
 - ・シャント造設、PTA、エコー検査体制の充実
 - ・シャント造設・PTA 138 件【目標：200 件】
 - ・シャントエコー 30 件/月
 - ・富士市防災ネットワークへの参画、講演、当院での研修会開催
 - ・透析時運動指導の実施 61 件/月、透析時フットケアの実施 41 件/月
- ⑤ 健診事業の充実
 - ・人間ドック枠の拡大（人間ドック 382 件）【目標：447 件】
 - ・契約団体獲得に向けた営業強化 新規契約 6 団体
 - ・富士市巡回バス健診の運営開始
 - ・特定保健指導の充実（特定保健指導・健康相談 1,040 件）
 - ・出張インフルエンザワクチンの運営
- ⑥ 高額医療機器の利用促進
 - ・CT/MRI の有効活用（CT 568 件/月、MRI 267 件/月）
 - ・健診肺がん CT の推奨
 - ・夕方の紹介検査枠の運用開始
 - ・一般撮影システム（FPD）導入による時間短縮、安全性の向上
 - ・外部からの AI（死亡時画像診断）依頼に対する協力
- ⑦ 専門性を活かした医療の提供
 - ・健診、透析検査への対応拡大（血液検査、エコー）
 - ・病院-在宅リハの連携強化（在宅リハへのスタッフ応援）
 - ・糖尿病足病変に対する外来リハビリの提供開始
 - ・ロービジョンケア導入（眼科検査室）
 - ・服薬指導体制の強化
 - ・NST 活動の推進
- ⑧ 地域ニーズに対応する外来・救急体制
 - ・健診再精密検査の外来受診体制の整備（紹介受診 942 件/年）
 - ・看護専門外来の運営（フットケア、糖尿病透析予防指導、リフレ指導、下肢創傷処置など）
- ⑨ 地域への積極的な情報発信・他施設連携
 - ・紹介、転院受入の連携強化（紹介患者数 418 件/月）【目標：420 件/月】
 - ・医師同行による地域医療機関への継続訪問
 - ・病院ホームページの活用（看護部ブログ、紹介動画の運用開始）
 - ・病院広報誌「恵愛だより」を活用した情報発信の強化
- ⑩ 安全・感染対策の向上
 - ・5 類移行後の感染対策策定、発熱外来・検査の運営継続
 - ・暴言、暴力に対する講習会開催
 - ・医療安全相互評価の実施、医療安全管理情報の月次配信

4. 職員がやりがいをもって働ける職場環境の整備

- ① やりがいをもって働ける職場づくり
 - ・タスクシェアの推進
 - ・管理栄養士による特定保健指導（健診事業）
 - ・薬剤師による持参薬鑑別の運用開始
 - ・看護部内の応援体制推進（病棟間、透析、外来、外来手術などへの応援）
 - ・臨床工学技士の業務範囲・応援体制の拡大（透析、内視鏡、手術室）
 - ・聖隷福祉事業団、芙蓉協会との連携（診療支援、職員出向、合同研修）
 - ・専門資格の取得、外部研修への参加
 - ・職員満足度調査の実施
- ② 健康経営の取り組み推進
 - ・メンタルヘルス講演会の実施
 - ・ストレスチェックの実施（受検率 97.8%）
 - ・職員健診・ドック、特定保健指導、職場巡視、予防接種の実施
- ③ 電子カルテの安定稼働・業務改善の推進
 - ・電子カルテ導入プロジェクトの発足・運営
 - ・2024年1月22日 電子カルテ本稼働

5. 事業継続可能な病院経営の改善

- ① コンプライアンス経営の推進
 - ・インボイス制度、電帳法改正に伴う対応（請求書のインボイス対応など）
 - ・病院運営・施設基準管理に対する外部監査の実施
- ② 費用の適切な管理
 - ・診療材料切り替えによる費用削減（462万円/年）
 - ・自営修理、工事などによる費用削減（100万円/年）
 - ・保守委託費の見直し（104万円/年）
 - ・省エネ対策の強化（電気使用量 対前年 99%、ガス使用量 対前年 91%）
 - ・LED照明への順次切替え（自営）
 - ・院内保育園の適正な運営

〈病院〉

項目	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	414名	382名	92.3%	93.9%
外来単価	23,200円	24,245円	104.5%	104.0%
入院患者数	93名	76名	81.7%	90.4%
入院単価	57,997円	57,503円	99.1%	97.7%
病床稼働率	79.5%	65.0%	81.7%	89.5%
職員数	298名	296名	99.3%	99.7%

〈健診〉

項目	予算	実績	対予算	対前年
健診受診数	3,316名	3,124名	94.2%	119.7%
健診単価	19,892円	18,585円	93.4%	107.4%

※ 各種ドック、一般健診、職員健診に限る。

3. 在宅(訪問看護ステーションけいあい、居宅介護支援事業所けいあい)

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、陽性者の訪問であっても感染対策を徹底して通常に対応することができた。年度末には、業務改善・効率化を目的にiPadを導入し、記録の電子化を図った。引き続き、早期の運用定着を目指していく。職員体制においては介護支援専門員1名の採用と看護師2名の退職があった。看護職員の減少で厳しい訪問体制での支援が続いているが、当事業所の特徴である癌の終末期を含めた在宅看取り数は2事業所で57名。次年度の診療報酬改定により更に算定増加が見込まれる。また、新規利用者の受け入れ数も前年度と同様に継続できている。

居宅介護支援事業所は、訪問看護と併設していることもあり医療依存度が高い方・終末期の方・困難事例など包括支援センターや病院からの依頼が継続している。その他、日々の支援に加え、利用者への意思決定支援(ACP)や、次年度に向け業務継続計画の策定・虐待防止身体拘束対策等の準備を行った。職員がやりがいを感じ、働き続けられる職場環境作りと地域の人々が医療と介護を安心して利用できるために、看護職員の採用が最優先課題と考える。

【在宅事業理念】

利用者が住み慣れた地域社会や在宅において、安心して安全に暮らせるよう、地域に根ざした質の高いサービスを提供します。

【2023年度重点施策】

1. 働きやすい体制を整備する
2. 人材育成の推進を図り、質の高いサービスを提供する
3. 労働環境の整備
4. 社会貢献への取り組み

〈訪問看護・居宅〉

項目	予 算	実 績	対予算	対前年
介護保険 利用回数	701 件	598 件	85.3 %	91.5 %
単 価	10,000 円	10,162 円	101.6 %	111.9 %
医療保険 利用回数	579 件	510 件	88.0 %	90.9 %
単 価	12,758 円	11,020 円	86.3 %	90.4 %
居 宅 利用回数	140 件	132 件	94.2 %	101.5 %
単 価	13,165 円	15,244 円	115.7 %	104.3 %

【2023年度の主な行事】

行 事 内 容	実 施 日
新入職員オリエンテーション	4月 3日
新人防災研修	4月 4日
監事監査	5月 16日
理事会	5月 24日、12月 20日、 3月 6日
中堅研修(第2回～第5回、フォローアップ)	5月 25日、 8月 31日、10月 20日 ～21日、12月 8日、 3月 8日
聖隷福祉事業団監査室関連法人外部監査	6月 8日
評議員会	6月 12日
新人研修(年2回)	6月 16日～17日、 1月 26日
緊急連絡(安否確認)訓練	7月 14日
2年目研修	7月 14日
役職者研修(年2回)	7月 26日、 3月 27日
ストレスチェック	7月 28日～ 8月 18日
勤務意向調査・職員満足度調査	8月 1日～ 8月 25日
すくすく保育園児童育成協会立入調査	8月 3日
医療安全研修(年2回、防犯講習・eラーニング)	8月 18日、12月 25日～ 1月 18日
倫理研修(eラーニング)	9月 1日～30日
ハラスメント対策研修(eラーニング)	9月 1日～30日
聖隷福祉事業団施設基準内部監査	9月 21日
総合防災訓練	9月 28日
接遇・マナー研修(デスクネット開催)	10月 1日～15日
保健所立入検査・消防立入検査	10月 5日
感染研修(年2回、デスクネット開催)	10月 11日～11月 2日、 3月 18日～4月 23日
第20回院内学会	10月 28日
患者満足度調査(外来)	11月 2日、6日
患者満足度調査(透析・入院)	11月(1ヶ月間)
安全運転講習(デスクネット開催)	12月 4日～22日
糖尿病療養支援委員会勉強会(デスクネット開催)	1月 4日～31日
聖隷福祉事業団監査室フォロー監査	1月 11日
電子カルテシステム稼働	1月 22日
医療ガス保安講習(デスクネット開催)	2月 5日～22日
夜間開催訓練	2月 15日